



## 一日千里、周の穆王 (史記の中の冒険家①)

6月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2022年6月1日(水)

周王朝は、中国史上最も長い約800年の歴史を持つ王朝である。

周王朝の初期(BC900年頃)、何度も西域へ遠出をした周の「穆王」は、史記の中の冒険家の第一番目である。

穆王即位のとき、周の王道が衰微していたので、文・武の長官を定め国政を安定させた。併せて、「犬戎」を征し、「四頭の白狼と四頭の白鹿」を得て帰還した。また、刑罰を緩やかにして、確証のないものには嫌疑をかけず、軽々に刑を執行してはならないとした。鯨刑(いれずみの刑)、劓刑(はなきりの刑)、臙刑(あしきりの刑)、宮刑(陰茎をきる刑)の疑わしいものは赦して、罰金刑にして、名実の伴うようにせよと命じた。

王の狩場に「造父」という馬の調教と乗馬の名人がいた。どのような荒れ狂う馬も彼の手にかかると自由に御することができた。

穆王は、造父を御者にして国内の山河をかけめぐって楽しんだ。

都から300余里離れた広い桃林は名馬の産地であった。造父はそこで、穆王のために八匹の名馬を選び、「八駿」と名付けて穆王に献上した。一般の馬車は四頭だてであるが、穆王の馬車は八頭だてで、八駿が配されてスピードも速く、遠出も可能であった。

ある日、八駿の引いた馬車は、駆けに駆け、穆王と造父は、隄山山脈の奥深い峡谷を駆け抜け、崑崙山の麓にある幻の国「西王母の国」にまで達した。西王母国は気候もおだやかで、四季は美しく、いつも春で、いたるところ花園で美しい花が咲き誇っていた。

若くて美しい女王「西王母」は穆王を熱烈に歓迎、穆王は女王に黄金、玉璧を献上した。女王は自ら穆王を国内の名胜古迹に案内し、夢のような楽しい1ヶ月余はまたたく間に過ぎ、穆王は国の政治を忘れるほどであった。造父は何度も穆王に帰国をすすめたが穆王は我関せずであった。

ある日、突然、国からの使者が到着して、穆王に一通の手紙を届けた。手紙を開くと「東方の徐偃王」が穆王の留守を知り、反乱を起こして「都(鎬京)」へ攻めて来るとの報告であった。

穆王は西王母に手紙を見せ、都の乱を鎮めるために帰国しなければならない旨を伝え、造父に帰国の馬車を用意するよう命じた。都までの約三千里を「八駿」の引く八頭建ての馬車は「一日千里」を駆けて、三日三晩で都に到着した。直ちに出陣し、偃王軍を「渭河」付近で大破した。

参考：史記(周本紀)、司馬遷史記(徳間書店)